

〈地方の知の系譜〉の評価と発信－鳥取が輩出した文化人－

【概 要】

鳥取が近世から近代にかけて輩出してきた文化を、おもに近世の国学者に焦点を当てて調査・研究し、そこで発掘した鳥取の文化に新たな評価を与えることで鳥取の地域文化をあらためて発信する。ここで言う国学者とは、学問・和歌・神道などに関わる人々だけでなく、広く地域の政治的・文化的リーダーとして活動した人物群をさしている。とくに、プロジェクトで注目した点は、鳥取藩内だけでなく国学の中心地和歌山に留学したり広く諸国の知識人と交流したりした人物である。こうした鳥取藩外との関係という広がりの中なかで、鳥取の文化を見直していきたい。

研究活動としては、本居宣長以降、近世国学の中心となった和歌山の本居大平・加納諸平（藤垣内・柿園）派の中心人物として活躍した鳥取の人物群（飯田秀雄・年平、鷺見安歡、門脇重綾等）の資料を調査・収集する。調査方法の特色は、個別ではできない事業を鳥取大学附属図書館・鳥取県立博物館等と連携して調査・研究することにある。その際、プロジェクトメンバーのみならず学生にも撮影・整理・目録作成等の作業に参加してもらい、文化的資質の向上を目指すとともにその成果を授業などにも反映させる。さらに、鳥取大学附属図書館や鳥取県立博物館などでの展示や、公開講座・講演会・地域で運営する歴史や文学の研究会等での発表、そしておもな資料の翻刻や刊行物のなどを通じて地域貢献に資する予定である。

なお、すでに本プロジェクトはパイロット事業（鳥取大学理事経費）として、鳥取市青谷町原田家の調査を学生とともに実施している。

【キーワード】 国学、神道、和歌、神職、ネットワーク

【参加メンバー】 地域文化学科 岸本 覚（プロジェクト統括）
地域文化学科 久保 堅一
鳥取大学名誉教授 田中 仁

【協 力 先】 学部内 鳥取大学附属図書館（中原俊一統括司書）
学部外 鳥取県立博物館学芸員・鳥取県立図書館
伊藤康晴（元鳥取市歴史博物館学芸員）等

※資料の調査には、各機関の学芸員だけでなく学生等の協力を予定

※収集資料の整理・目録化には学生の協力を予定

【計 画】

25年度は、鳥取大学附属図書館・鳥取県立博物館等と連携しプロジェクトチームを組織するとともに、鳥取県内外に散在する鳥取の国学者資料の収集を行う。予定としては、近世鳥取の主要な国学資料等を有する山本嘉将氏収集のコレクション（東洋大学附属図書館稲葉文庫）、九州大学の鷺見家文書等の資料調査を実施し、許可された資料の撮影等を実施する。

プロジェクトが手がけるおもな資料群は、鳥取県立博物館に所蔵されている鷺見家文書で、収集した資料は、重要度の高いものの撮影を業務委託し、残りをプロジェクトメンバーや学生等で解説・画像分析や目録作成等の作業に入ることとする。

また、本年度中に、稲葉文庫について詳しい研究者等を招き概要を報告していただき、資料の重要性を共有するとともに地域への還元を検討する。

26年度も、25年度の継続作業として鳥取県立博物館の鷺見家文書の撮影を中心に本居宣長記念館・鳥取県立博物館の鷺見家文書、鳥取県立図書館所蔵の飯田家文書・飯田家文庫や鷺見家関係資料、境港市個人所蔵門脇家

文書等の調査を行う。収集した資料は、重要度の高いものの撮影を業務委託とし、そのほかの資料をプロジェクトメンバーや学生等で解説・画像分析・目録作成等を実施する。

27年度も前年度同様重要資料の撮影を業務委託し、プロジェクトしても作業を進める。それと同時に、収集資料の調査・研究を連携機関の学芸員と行い、その成果を資料翻刻や研究報告・研究論文として公開するだけでなく、公開講座として一般県民に還元し、さらに鳥取大学附属図書館・鳥取県立博物館で調査の成果を展示に活用してもらおう。

【地域連携先】 鳥取大学附属図書館、鳥取県立博物館、鳥取県立図書館等
※調査連携先 東洋大学附属図書館、九州大学、本居宣長記念館
鳥取県立博物館、鳥取県立図書館、米子市立図書館、個人宅